

論文要旨

1. スアンボーレ, タンチャノク(タイ)

日本人女性の前髪 種類と印象

キーワード: 日本の前髪の歴史、前髪の種類、前髪の印象、髪型への意識、日本とタイの比較

要旨:

多くの日本人女性は前髪があり、日本人女性の代表的な髪型だと思う。なぜ前髪は人気があるのか、前髪がどのような印象を与えるかを知るため、日本人女性の前髪について研究することにした。

第1章では、日本人女性が前髪を下げようになった原因を明らかにするために、時代を通して日本の前髪の歴史について述べた。第2章では、前髪の種類と外国人の前髪についての意見をまとめた。第3章では、日本人とタイ人女性に対して、「髪型」と「前髪」に関するアンケート調査を行い、その結果から両者の価値観の違いを比較し、分析した。

研究の結果、日本は平安時代から前髪を下ろす習慣があるが、日本人女性の間で人気になったのは1953年の映画「ローマの休日」の影響であることが分かった。また、前髪は歴史的に子供の髪型であり、長さなどの要素や種類によって印象が異なるが、主に可愛い印象を与えることが明らかになった。アンケート調査結果から、日本人がタイ人より見た目の印象を重視していることと、若々しさを望んでいることが示されたため、日本人女性に前髪がある人が多いと考えられる。

2. 楽 凱棋(ラン カイキ)(中国)

皮肉表現の多面性 皮肉の分類及び日中皮肉の事例比較

キーワード: 皮肉表現、日中比較、イケズ、陰陽怪気

要旨:

皮肉表現とは、言語や行動を通じて意図的に逆の意味を示す表現形式であり、しばしば間接的で複数の意味を持つ。近年、テクノロジーやソーシャルメディアの普及により、皮肉表現の使用はより広がっている。異なる文化や世代間での理解や解釈が問題となるかもしれない。例えば、中国と日本の文化と言語には顕著な違いがあり、両国の皮肉表現もそれぞれの特徴を持っている。

本論文では、まず皮肉表現を共通点によっていくつかに分類し、比較する。そして、日中両国の典型的な皮肉表現(日本は「イケズ」、中国はネット上の「陰陽怪気」)を詳しく分析し、その裏にある文化的な違いを探求する。

研究の結果、現代中国の皮肉は、一般的に他人に対する不満や批判を表すために、直接的で攻撃的であるのに対し、礼儀文化の影響を強く受けている日本の皮肉は、礼儀正しさと社会関係を重視する傾向があり、あまり攻撃性がない。さらに、将来的には他の文化における皮肉表現についても研究を進め、この複雑な言語現象をより深く理解したいと考えている。

3. 尹 婧禕(イン セイイ)(中国)

上野千鶴子ブームから見る中国の女性主義(フェミニズム)

キーワード: フェミニズム、中国の女性主義、上野千鶴子、若者の意識

要旨:

中国は20世紀初期の五四運動時期にフェミニズム思想が舶来した。儒教思想が人々の考えに入り込んでいたにもかかわらず、この時期に中国の女性主義が生み出された。その後、欧米先進国の女性主義に関する著作の影響を受け、中国の女性主義は急激に発展した。

21世紀のインターネットの発展とともに、ますます多くの中国人がフェミニズム(女性主義)を知り始めた。中国の女性主義に対する議論はネット上でより一層激しくなった。このフェミニズムブームに乗り込んだ日本人が、社会学者・作家上野千鶴子であった。上野は2019年東京大学入学式での式辞で中国ネット上でブレイクし、著作も中国でベストセラーになった。読者、出版社だけでなく、中国メディアからの注目も集めている。2022年は「上野千鶴子年」と呼ばれる。

本稿では、中国の女性主義の歴史と現状、上野千鶴子ブームを紹介し、さらに、中国若者を対象としたアンケートを行った。アンケート結果から、中国の女性主義に関する知識の普及はまだ不足しているが、上野千鶴子の思想が肯定的に受け入れられていることが明らかになった。

4. グエン, ファム トゥー ミン(ベトナム)

日本とベトナムの水墨画の比較研究

キーワード: 水墨画、日本とベトナムの比較、禅、東洋画と西洋画

要旨:

水墨画は、唐代(618~907年)に中国で生まれた伝統的な東アジアの芸術形式である。この芸術形式は、中国の国境を越え、日本やベトナムなどの近隣諸国に広がり、各国の芸術に強い影響を与えてきた。水墨画は中国から伝わったものであっても、異なる文化に伝わると、異なる表現、画風、描き方、価値観を持つものになる。そのため、筆者は日本とベトナムの水墨画が違うと考える。

しかし、「水墨画はどんなものか」と聞かれると、国によって違うことが認識できず、自国の水墨画の概念に基づいてしか答えられず、水墨画はどの国も同じと思う人が多いようだ。筆者はそれらの違いが、具体的に何か、なぜそれらの違いが生じたか、また、どのような要因で変化したのかという疑問を持った。そのため、水墨画はどの国でも同じであるという一般的な誤解を解き、そして水墨画全般に関する情報をより深めるために、「ベトナムと日本の水墨画の比較研究」というテーマで論文を書くことにした。

本論文の構成は以下の通りである。第1章では、日本とベトナムにおける水墨画の発展を説明し、第2章では、日本とベトナムの水墨画の違いを述べて分析する。

5. 姚 政翼(ヨウ セイヨク)(中国)

「中国製日本語」についての考察 —岐阜大学の中国人日本語学習者を中心に—

キーワード:「中国製日本語」、中国人日本語学習者、日中比較、日本語の誤用原因
要旨:

外国人日本語学習者は日本語を習得するうえで、さまざまな間違いをする。特に、中国人日本語学習者は母語の干渉を受けて独特の間違いをする。こういった中国人日本語学習者の間で頻発する間違った日本語は「中式日語(中国製日本語)」と呼ばれる。「中国製日本語」は中国で定着している言葉だが、「中国製日本語」の実態やそれに対する具体的な誤用原因などはまだ不明である。

本論では、「中国製日本語」の実態に着目し、テスト形式によるアンケート調査を行った。アンケート調査をもとに、多くの中国人日本語学習者が共通して間違うところを探し、その結果から、「中国製日本語」の実態と誤用原因を考察し、将来の日本語教育指導のポイントを探してみた。

研究の結果、日本語初級の学習者が間違いやすい日本語と、日本語のレベルに関係なく間違いやすい「中国製日本語」の両方を見つけた。また、中国人日本語学習者に向けての日本語の授業では中国語と日本語の相違点と注意点に言及すべきだという日本語教育のポイントを指摘した。

6. ホイナツカ, アリツィア マリア(ポーランド)

ポーランドにおける日本の小説 —小説選択の傾向—

キーワード:日本小説、出版状況、小説の選択、ポーランドにおける日本小説
要旨:

近年ポーランドでは、日本小説が人気を得るようになってきており、その翻訳が年々増加している。ポーランドで出版されている日本小説には、国際的に話題になった作品がある一方、知名度が低い作品もある。その背景には、出版社による選択がある。

出版社の選択は、ポーランドにおける日本文学の浸透に大きな影響を与え、ポーランド人の日本文学の理解を形成する。そこで、日本小説を扱う出版社に焦点を当て、小説の選択における傾向を調べることとした。出版社 13 社のデータの分析をおこない、2011 年以降のポーランドにおける日本小説の概要を示した。そのデータに加えて、2 社へのインタビューをおこない、ポーランドで日本小説を出版している出版社の特徴について考察した。

研究の結果、小説の選択に影響するのは、想定される読者の好み、ポーランド語訳の日本小説の範囲の拡大意向、翻訳者の事情、海外における評価、日本の文学賞であった。さらに、インタビュー結果から、小説の選択に大きな影響があるのは、出版者の判断や好みであることが明らかになった。